

# 市民 KOSHI CITY のひろば

## なつかしいふるさとのタベ 関東合志会



▲同郷のみんなで歌合戦

8月26日、関東在住の市出身者でつくる関東合志会が開催されました。同会は、関東合志会・関東西合志会が市誕生に伴い合併。郷土の発展に寄与することを目的として発足したものです。今年度は合併後初の会となり、市からも市長・議長はじめ7人が参加しました。80人の参加者は、なつかしいふるさとのお話を花を咲かせ、交流の輪を広げていました。

## 市の最高齢者は106歳



▲息子、娘に囲まれて100歳到達を喜ぶ土屋トキエさん(写真中央)

9月28日、29日、市の長寿者表彰が行われました。今年度100歳を迎える8人には、内閣総理大臣からの表彰状や、市からの表彰状などが贈られました。市の最高齢者で106歳の後藤タキさん(原口)ら100歳以上の11人には、記念品が贈られました。長寿の皆さんは、まだまだ長生きを楽しんでいるようです。

## 地域の交流を あんもちだご汁で



▲今度、家でも作ってみようかねー

9月13日、日向公民館で婦人会活動を地域の人に理解してもらうことと、会員相互の交流を目的に「あんもちだご汁作り」が行われました。だご汁会の講師は市婦人会長渡辺さん。婦人会員や地域の人が「なつかしかな〜」などと言いつつ楽しんで作っていました。

## お父さんお母さんのための 読み聞かせ塾

9月14日、ワイブールで子育て支援ワークショップとして活躍中の高野和佳子さんを講師に、『子ども読書活動推進講座』が開かれました。小・中学校の保護者を対象に開催された第1回の講座は『心を育てる、いのちある言葉』と題し、読み聞かせの基本について指導がありました。75人の参加者は、昔話の語り聞かせや読み聞かせの大切さについて学びました。



▲子ども読書活動推進講座

## 須屋区、発展のために

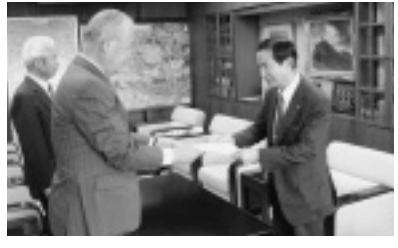


▲須屋成人会設立40周年記念式典

9月23日、須屋成人会(会長 松永 修正)の設立40周年記念式典がありました。須屋成人会とは、須屋区の地域活動を支えているボランティア団体で、区の人口増加が始まった昭和41年に発足。都市化していく須屋区の発展のためには、まず地域の連帯を深め、地域活動から始めようという地域活動が集まりました。地域のつながりが希薄化する中、これからも須屋区を支える大きな力として活動されていくことを期待します。

## 合志市行政改革大綱(案)の 答申書が手渡されました

10月4日、合志市総合政策審議会(会長以下19人)の古賀靖雄会長から、合志市行政改革大綱(案)についての答申書が大住市長へ手渡されました。今後は、この答申を踏まえて、合志市行政改革大綱が12月中までに策定されます。



## 屋外有線放送と 放送用備品を整備

コミュニティの健全な発展を図ることを目的としたコミュニティ助成事業により、若原区に屋外有線放送と放送用備品が整備されました。この、コミュニティ助成事業は、宝くじ普及広報事業費を財源として財団法人自治総合センターが助成を行うもので、今後の若原区の益々の活性化が期待されます。



宝くじは豊かさ築くチカラ持ち。宝くじは、広く社会に役立てられています。

## 犯罪のない明るい社会に 『社会を明るくする運動』 作文コンテスト表彰作品



「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。市でも7月を強調月間としさまざまな啓発運動を行いました。その啓発運動の一つとして、市内の各小中学校の児童生徒を対象に、運動の趣旨をテーマにした作文を募集しました。その結果、最優秀賞に西合志第一小の緒方くん(10)の作品が選ばれましたので紹介します。

### 「ぼくのひいばあちゃん」

第一小4年 緒方琳太郎

ぼくが学校からかえるのを、えんがわであみものをしながら、待っていてくれるひいばあちゃん。 「ただいま、ばあちゃん。」 とぼくが、ランドセルをからったまばあちゃんの近くにいくと、 「おかえり、りんちゃん。のどがかわいてないかい。」 とにこにこしながら、こたえてくれる。 ぼくの大好きなひいばあちゃんは、九十三さい。とっても元気やさい。すきなことはあみもので、ぼくや妹のセーターをあんでくれる。できあがったセーターを着たぼくの姿を見る時のばあちゃんは目を細めて、とてもかがやいている。ぼくもそのセーターを着るとあたたかい気持ちになる。 ぼくが生まれた時、とってもよろこんでくれてよくめんどうを見てくれたそだ。『だっこして、すやすやねって、ぼくが起きるまでずっと、何時間も何時間もだっこしていてくれた。』とお母さんがぼくに話してくれた。ぼくはその話を聞いて、お母さんが大きくなったから、かわいがってもらった分ぼくがひいばあちゃんを大切にしなければいけないと思った。 ある日、そんなひいばあちゃんの顔から笑顔がきえた。そしてぼくの前にあまり顔を出さなくなった。しんせきの人がなくなったのだ。 ぼくは、(あんなに元気だったひいばあちゃんが、今までひいばあちゃんほだけの人と別れをけいけいしてきたのだらう。きつと、ぼくが味わったことのないつらいことがたくさんあった。でもぼくにはひいばあちゃんに会いに行くことしかできなかった。 早く元気がないひいばあちゃんにもどってほしい。ぼくはそんな思いで、毎日ばあちゃんの部屋に行った。少しづつひいばあちゃんの顔に笑顔がもどってきた。元気をとりもどしたひいばあちゃんを見てぼくはとっても安心した。 この出来事でぼくは気づいた。ぼくにとつてひいばあちゃんの笑顔がどんなに大切なのかということ。 今日また、ひいばあちゃんほくに「りんちゃんたちのおかげで長生きできるよ。ありがと。」と言ってくれた。その言葉を聞くと、やさしい気持ちになれる。ひいばあちゃんがいなくなるだけでぼくは安心していられる。 いつまでも、ぼくの近くにいってほしい、たいせつなひいばあちゃん。

## 交通安全活動に貢献

秋の交通安全運動に併せ、次の2人が交通安全表彰を受賞しました。 地域ぐるみで積極的な活動を行い、交通事故のない安心して暮らせるまちを実現しましょう。

- 交通安全功労者等 (管区連名)表彰
  - 有働 義則
  - 松岡 榮美
- 交通安全功労者 (緑十字銅章)
  - 松岡 榮美
  - (上古閑)



▲表彰を受ける有働さん



▲表彰を受ける松岡さん